

21 世紀の社会とこれからの生涯学習支援の課題

山本 恒夫
(筑波大学)

21 世紀は目前に迫っている。ここではこれからの生涯学習支援の課題として、特に生涯学習社会における教育・学習システム整備上の課題を、新たな情報コミュニケーション技術の急速な発達による社会の変化との関わりで検討しておきたい。シンポジウムでは、それと関わって、創造性の育成・向上のための関係変換の習得について提案を行ったが、それについて述べることは別の機会に譲りたいと思う。

1. 21 世紀の社会

21 世紀は、新たな情報コミュニケーション技術の発達が社会に印刷術の発明以来の大変革をもたらすとされ、既に様々なところでそれが表出し始めている。社会構造の次元でみると、これからはマルチメディア社会になるといわれる。これは社会の特徴を捉えての話であり、直接的な体験がなくなる社会になるということではない。社会のマルチメディア化が進めば、マルチメディア・ネットワークが発達し、その影響で、やがては情報面だけではなく社会のあらゆる面でネットワーク化が進んだネットワーク社会が到来すると考えられる。

マルチメディア社会を時系列の次元でみれば、情報の価値を最も高く評価する時代になると考えられるので、それは「情報」の時代ということになるであろう。時代の流れは、近世以降に限ってみても、ルネッサンスの人間主

義に象徴されるような「人」の時代から、陸と海の交易が盛んになるとともに始まる「物」の時代や、近代の資本に代表される「金」の時代を経て、「情報」の時代へと推移してきている。

現在は、人、物、金、情報の4資源がすべて出揃った時点ということになるが、おそらく、これからはそれらの関係変換を図ることによる新たな資源の創出へと向かうであろう。

新たな創造は、何かを関係づけたり、関係変換を行ったりすることによって可能になることを考えると、いずれは関係に最も高い価値を置く「関係」の時代になるのではないかと考えられる。実はネットワークそのものも、抽象的にいえば、点を線で関係づけることによって成り立つのであるから、「関係」によって特徴づけられることになるのである。ネットワーク社会の時代は、「関係」の操作による創造性を指向するようになるものと思われる。

以上のような展望と生涯学習社会の教育・学習システム整備上のこれからの課題をまとめたのが、表1である。

表1 21世紀の社会展望と生涯学習社会実現へ向けての当面の課題

時代の特徴 (時系列の次元)	情報の時代 (20世紀末～21世紀初期)	関係の時代 (21世紀～)
社会の特徴 (社会構造の次元)	マルチメディア社会 (マルチメディア ・ネットワークの拡大) -->	ネットワーク社会
社会の指向性	情報資源の豊かさ	創造性の豊かさ
社会の教育・ 学習的側面	生涯学習社会	
教育・学習システム 整備上の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教育・学習システムへのマルチメディアの導入 ・教育・学習ソフトの蓄積 ・融合的生涯学習支援システムの拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習相談の充実 ・生涯学習単位、学習成果認証システムの構築 ・学習成果活用システムの構築

2. 生涯学習社会の教育・学習システムとこれからの課題

我が国は生涯学習社会を目指しているが、平成3（1991）年の中央教育審議会答申「新しい時代に対応する教育の諸制度の改革について」や平成4（1992）年の生涯学習審議会答申「今後の社会の動向に対処した生涯学習の振興方策について」のいう生涯学習社会は、生涯のいつでも自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が社会で適切に評価されるような社会である。そのような社会の教育・学習システムは、サブ・システムとして学習機会等選択援助システム、学習機会等提供システム、学習成果の認定サービス・システムを持つことになるが、システム整備や改革は様々な形で行われつつある。

臨時教育審議会が生涯学習体系への移行を提唱したのを受けて、平成2（1990）年に中央教育審議会が答申「生涯学習の基盤整備について」を出してからまだ10年しか経っていない。この間の生涯学習基盤の整備には目覚ましいものがあるとはいえ、生涯学習社会を実現するためには、立ち遅れている学習成果の認定・認証サービス・システムの構築をはじめ、多くの問題を解決していかなければならない。

ここでは、これまでに行われてきた基盤整備は自明のこととしてあえてふれずに、その上に立って今後取り組まなければならない課題を挙げることにしよう。それは表1に示した如く、次のようになるであろう。

(1) マルチメディア社会の段階

- ① 教育・学習システムへのマルチメディアの導入
- ② 教育・学習ソフトの蓄積
- ③ 融合的生涯学習支援システムの拡充

(2) ネットワーク社会の段階

- ① 学習相談の充実
- ② 生涯学習記録票（生涯学習パスポート）、生涯学習単位の創設、学習成果認証システムの構築
- ③ 学習成果活用システムの構築

(1)の①教育・学習システムへのマルチメディアの導入は、学習機会等選択

援助システム、学習機会等提供システム、学習成果の認定・認証サービス・システムの全体にわたる課題である。いずれはそれらを結んだリンク型ネットワークができるであろうが、それに伴い、教育・学習システムも、その構造が大きく変わるものと思われる。ここでは特に学習機会等提供システムに関わって、②教育・学習ソフトの蓄積が重要な課題となることを指摘しておきたい。

また、マルチメディア化が進めば、学習機会等提供システムの中の広域的なネットワーク化が進み、③融合的生涯学習支援システムの拡充も進むものと思われる。現在は学社融合だけが先行しているが、情報はボーダーレスであるから、今後、マルチメディアを活用して、学校と社会、企業、家庭を結んだ様々な融合的生涯学習支援システムが作られるに違いない。

(2)の①、②、③については、なぜそれらがネットワーク社会の段階に位置づくのかということについての説明が必要であろう。実は、これらはいずれも学習資源や人と人に関係づける機能がある。

①の学習相談は、様々な学習方法、内容、機会、学習資源等を何らかの形で関係づけることによって、学習に関する問題を解決することが多いのである。学習相談はこれまでも一部で行われているが、本格的な体制整備はこれからである。

②の生涯学習記録票（生涯学習パスポート）は、まさに学習成果の時間的な順序づけという関係づけであるし、生涯学習単位は、様々な学習成果の評価をそれに換算して結び付けるという関係づけをする。学習成果認証システムはそれを行う仕組みである。

学習成果活用システムは学習成果の活用をめぐる需要と供給をうまく結び付けようとする仕組みである。また、学習成果を活用するためには、学習した知識・技術等に関係づけたり、それらの間にある既存の関係を変換したりする必要がある。

これからは、さらに新しい課題が次々と出てくるに違いない。それらについては、出てくるたびに検討を加える必要があるが、当面はこのような課題に取り組んでいかなければならないように思われる。